

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
2007年春の年会 総会議事
(2007年3月28日 12時～13時 F会場)

議 事 次 第

進行：山澤委員

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 1. 部会長挨拶 | 飯田部会長 |
| 2. 部会の体制について (資料1) | 高橋委員 |
| 3. 2006年部会企画について (資料2) | 山西委員 |
| 4. ICRP 調査研究連絡報告会について | 飯本委員、小池委員 |
| 5. 部会主催・共催シンポジウム等について (資料3) | 飯本委員、小池委員 |
| 6. 2007年秋の大会以降の部会企画について (資料4) | 山西委員 |
| 7. 炭素14環境中移行研究連絡会の活動について (資料5) | 山澤委員 |
| 8. 委員会報告 | 各学会委員 |
| 9. その他 | |
| 10. 副部会長挨拶 | 占部副部会長 |

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
第 4 期 (2006 ~ 2007 年度) 委員名簿

【役員】

部会長 : 飯田孝夫 (名大)
副部会長 : 占部逸正 (福山大)
副部会長 : 本間俊充 (原子力機構)
会計監査 : 宮崎振一郎 (関電)

【運営委員】25名

飯田孝夫 (名大) 飯本武志 (東大) 植頭康裕 (原子力機構) 内田滋夫 (放医研) 占部逸正 (福山大) 木名瀬栄 (原子力機構) 栗原治 (放医研) 小嵐淳 (原子力機構) 小池裕也 (東大) 小佐古敏荘 (東大) 下道国 (藤田保健衛生大) 杉浦紳之 (近大) 高橋知之 (京大) 塚田祥文 (環境科研) 外川織彦 (原子力機構) 永井晴康 (原子力機構) 服部隆利 (電中研) 二ツ川章二 (RI 協会) 本間俊充 (原子力機構) 三浦太一 (高工研) 宮崎振一郎 (関電) 百瀬琢磨 (原子力機構) 山澤弘実 (名大) 山西弘城 (核融合研) 米原英典 (放医研)
() は常任委員会を構成する部会長、副部会長及び幹事)

【学会委員】

部会等運営委員	飯本武志 (東大)	2007 ~ 2009 年度
学会誌編集委員	服部隆利 (電中研)	2004 ~ 2007 年度
	外川織彦 (原子力機構)	2006 ~ 2008 年度
	三浦太一 (高工研)	2007 ~ 2009 年度
学会プログラム委員	植頭康裕 (原子力機構)	2005 ~ 2007 年度
	木名瀬栄 (原子力機構)	2005 ~ 2007 年度
	永井晴康 (原子力機構)	2007 ~ 2009 年度
日韓サマースクール運営連絡会担当	飯本武志 (東大)	2005 ~ 未定

【担当委員】

総務担当 : 高橋知之、山澤弘実 (運営委員会及び総会運営、その他雑務)
会計担当 : 栗原治 (会計)
渉外担当 : 小池裕也 (学会事務局、他学協会、他部会等との連絡調整等)
企画担当 : 山西弘城、永井晴康 (部会企画の立案、運営、プログラム作成等)
広報担当 : 小嵐淳 (ホームページ管理、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)
組織担当 : 木名瀬栄 (投稿論文、学会発表の勧誘、部会員の増強)

2006 年度部会企画について

2006 秋の大会 9月28日(木) 9:30~12:00

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「炭素 14 の環境中移行研究の現状と今後の展開」

講演 : 座長: 名古屋大学 山澤弘実

1. 樹木年輪を用いたセラフィールド再処理施設からの炭素 14 大気放出量の再評価
日本分析センター 磯貝啓介
2. 閉鎖型生態系実験施設での C-13 を用いた大気・食物を介するヒトへの炭素移行実験計画
環境科学技術研究所 多胡靖宏
3. 河川環境における粒子及び溶存態 C-14 の環境挙動
北海道大学 長尾誠也
4. 森林炭素 14 循環と環境問題への展開
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳
名古屋大学 山澤弘実
5. 炭素 14 環境中移行モデル化の現状と EMRAS での展開
京都大学 高橋知之
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳

2007 春の年会 3月28日(水) 13:00~14:30

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「自然放射線被ばくに関する放射線防護の動向」

座長: 福山大 占部逸正

1. 自然起源の放射性物質の管理 放医研 米原英典
2. 航空機被ばくの管理 放医研 保田浩志
3. 宇宙飛行士の被ばくの考え方 三菱総研 岩井 敏
4. 職場と一般環境のラドンの対策 東大 飯本武志

部会主催・共催シンポジウム等について

第 8 回「環境放射能」研究会

主 催：高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター

日本放射化学会 放射体・環境放射能分科会

共 催：日本原子力学会保健物理・環境科学部会

日本放射線影響学会

日本放射線安全管理学会

開催日時：平成 19 年 3 月 22 日（木）～ 3 月 24 日（土）

開催場所：高エネルギー加速器研究機構

3 号館セミナーホール及び会議室

2007 年秋の大会 部会企画（案）

開催時期：2007 年秋の大会（9 月、北九州）

部会合同企画セッション（核融合工学部会、保健物理・環境科学部会）
「核融合実験と放射線安全」

主旨：

ITER（国際熱核融合実験炉）協定の署名が行われ、ITER 建設が始動した。国内でも ITER・BA（ブロードアプローチ）計画が具体化しつつあり、核融合研究も新展開を見せようとしている。

そのような中で、核融合工学部会と保健物理・環境科学部会の交流企画の第 1 回を開催する。

核融合と放射線安全に関して、講演を企画し、共通課題を見つける機会とする。

核融合工学部会からは、計画の紹介と放射線安全や安全性に関する課題を整理して報告する。

保健物理・環境科学部会からは、核融合研究に関連する放射線安全上の課題を整理するとともに、高エネルギー加速器や原子炉における放射線管理・環境管理の現状について提示する。

内容：各 20 分

- 1) ITER 計画と放射線安全
- 2) JT-60 改造計画と放射線安全
- 3) 保健物理から見た核融合
- 4) 環境科学から見た核融合

キーワード：

核融合、保健物理、環境科学

放射線遮へい、放射化、トリチウム、作業安全、環境安全、電磁界曝露

廃棄物管理、環境管理

安全性と社会受容性

以上

保健物理・環境科学部会
炭素14環境中移行研究連絡会会合

下記のとおり開催いたしますのでご出席下さいますようご案内致します。
また、連絡会に入っていない方の飛び入りやオブザーバー参加も歓迎致します。

記

日時 3月28日(学会2日目) 18:45~19:30

場所 工学部5号館320会議室
下の地図の34番の建物の3階(およそ赤丸の位置)
・F会場(36番の建物)から約3分

議題

1. 顔合わせおよび体制の検討
2. 活動内容
情報交換、次回学会での発表予定、研究協力の可能性
3. その他

以上

